

# 下都賀総合病院はとうなる

## 『住民とつくる地域医療』を考える集い



とき

2月11日 (金) 祝日

時間：午後1時30分～4時30分まで

会場：栃木市文化会館 小ホール

### ★特別講演

『下都賀総合病院に求められる役割とこれから  
～地域医療の現状をにらんで～』

講師：木高 博 (きだか ひろし) 氏  
医療介護情報分析センター所長

『突然の閉院から住民運動の力で  
新病院設立までの5年間の軌跡』  
～奈良県生駒市『生駒の地域医療を育てる会』～

講師：長島 稔 (ながしまみのる) 氏  
(奈良県生駒市『生駒の地域医療を育てる会』代表)

地域住民の力で医療を守ろう!!

地域のみなさんを対象にした  
勉強会を行います

医療を守る「住民の会」  
発足集会!!

わたしたちも応援します

○呼びかけ人 (敬称略 順不同)

渡邊 全一(マロニエ医療福祉専門学校講師 栃木市在住) 高際 澄雄(宇大教授 栃木市在住)  
嶋崎 勝典(とちぎ診療所院長) 宮内 裕光(サンレディースクリニック院長)  
飯島 尚(元市議 栃木市在住) 玉野 芳成(元下都賀総合病院名誉院長)  
手塚 弥太郎(元市議 栃木市在住) 一木 明(弁護士) 小久保 弘一(栃木市在住)  
星 瑞枝(栃木在住) 島田 文江(栃木市在住) 吉田 弘(栃木市在住)  
増田 英二(栃木市在住) 須黒 雪枝(大平山麓九条の会 栃木市在住)  
堤 エリカ(栃木市在住) 大塚 留吉(栃木市在住) 柏崎 茂(栃木市在住)  
山本 磐夫(九条の会 栃木市在住) 早乙女 利次(栃木医療生協組合理事)  
渡辺 啓次(栃木市在住) 岡部 義秀(明大兼任講師、医療介護情報分析センター)  
野口 徳(年金者組合栃木支部長 栃木市在住) 町田 紘一(年金者組合栃木支部書記長)

### ◆事務局

住民とつくる地域医療  
実行委員会準備会  
飯)事務所  
下都賀総合病院職員  
組合事務所  
TEL/FAX  
0282-22-7074  
事務局担当者  
酒巻正和・高田正男

入場無料

# 住民とつくる地域医療～安心して暮らせる街を目指して～

今日の医療情勢は臨床医師研修医制度の改正以来、全国的な医師不足に陥り「医療崩壊」「介護崩壊」と言われる深刻な状況が続いています。

下都賀総合病院においても医師・看護師不足は深刻な問題で、一部診療科の休止や病棟縮小を余儀なくされています。また、経営は過去10年間におよび診療報酬の引き下げもあり、厳しい状況を余儀なくされています。平成21年度、大幅な単年度赤字の中、病院存続を強く求める栃木市からの運転資金3億円の融資をうけ運営されているのが現状です。

下都賀総合病院は県南保健医療圏（栃木救急医療圏）において、二次救急輪番病院、脳卒中専門医療機関等として、極めて重要な中核的な機能を担う医療機関であり、栃木地区をはじめとした県南地区の住民のみなさまに必須の病院として今日までその役割を果たしてきていると言えるでしょう。栃木地区の救急車受け入れ率も40%超と無くてはならない医療機関であることは、そこを利用している患者さんだけではなく地域住民の多くの方が思っていることだと思います。

また、下都賀総合病院は建物の老朽化が深刻さを増し、狭隘化を考えれば、できるだけ早期に病院の建替えを行うことが必要であるともいえます。現在、国の地域医療再生交付金（25億円）の内示を始め、栃木市が地域住民の健康と命を守るため、栃木市地域医療対策会議の中で下都賀新築移転に向けて協議をして下さっており、早々にも地域医療構築のための案が出されるようです。

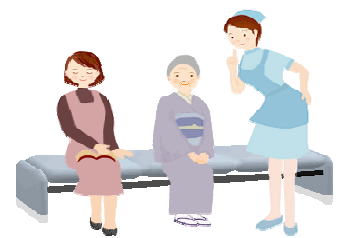
しかしながら、新築移転に向けては、今後、市・県・厚生連の三者会議によって決定するとのことで、これからというのが実情であると思われますし、病院機能、診療機能が本当に地域住民の求めているものかということもこれからの課題です。病院新築は喜ばしいことではありますが、診療機能が地域住民の求めているものでなければ、地域に根ざした病院、地域のみなさまが安心して暮らせるための病院にはなりません。そのためには、地域住民がもっと医療に目を向け、病院及びそこで働く職員と強い連携をつくり、県及び栃木市からの全面協力体制を進め、病院・地域が一体になった地域医療の構築、そして県南地域の中核医療機関の確立のための取組み（運動）が必須と考えます。

そのためには『（仮）住民とつくる地域医療の会』結成が不可欠と考え、私たちは2月11日（金）に地域住民のみなさまを対象とした『地域医療の集い』を再び開催し、会結成をしていきたいと考えています。どなたでも、ご自由にご来場出来ます。入会もみなさまの自由です。「医療の灯は暮らしの灯」私たちが安心して暮らせる街づくりをみんなで考えましょう。多くのみなさまのご来場をお待ちしております。

## ☆講師紹介

- 講師：木高 博（きだか ひろし）氏  
★医療介護情報分析センター所長（東京都在住）

全国的な医療情勢に精通された医療専門経営コンサルタント  
栃木県厚生連（下都賀総合病院）の経営状況にも精通。  
第1回『住民とつくる地域医療を考える集い』にて講演



- 講師：長島 稔（ながしま みのもる）氏  
★奈良県生駒市『生駒の地域医療を育てる会』代表  
～運動経過～

奈良県国保連合会が運営していた生駒総合病院は、2005年3月末に突然閉院。170人いた職員は全員解雇になりました。労働組合がなかった同院では、1人の医師が奈良県医労連に駆け込み、労働組合をつくることから運動が始まりました。患者さんも立ち上がり「患者の会」を結成。住民や諸団体も交えて、2006年2月11日に「生駒の医療を守る市民連絡会」ができました。運動は「存続」か「市民の病院をつくる」に発展。離散した病院職員や患者、住民などが「自分たちの力で病院をつくる」ことで「つながって」いき、2008年7月には「生駒の地域医療を育てる会」として開花しました。

一度なくなった病院を新たに「つくる」運動は困難を極めていますが、でも、運動が広がる中で、市議会や医師会など「つながり」もいっそう広がり、今では、奈良県が病床配分、市議会が病院設置条例を可決するところまで達しています。

